



Dynamic Equilibrium of Life

“いのち”は動的平衡

コロナ禍に苛まれ、ますます分断が深まる現代社会。
混迷から抜け出せないのはなぜだろう。
それは“いのち”とは何かを考える根本的な視点「生命哲学」が抜け落ちているからではないか。

フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「生命には、物質の下る坂を登ろうとする“努力”がある」と言った。

私は、その“努力”の本質を「いのちの動的平衡」と捉える。
私たち生命体と環境とのあいだには、実は明確な境界線はない。
生命体を構成している原子や分子は、絶えず環境との間で交換されている。

私たちの“いのち”は、38億年前に奇跡的に生まれた、
たったひとつの細胞から出発した壮大な流れの中にあり、このあとも未来に手渡されていく。
これが動的平衡である。
動的平衡の中では、死でさえも利他的な行為となる。

ひとたび「いのち動的平衡館」に入ると、あなたの“いのち”は、たちまち粒子化されて流れの中に溶け出し、
悠久の生命進化史の物語に参加していく。
あなたの生命観を根底から揺さぶり、生きること・死ぬことの意味と希望を再発見する体験をお届けしたい。

ここでは、パビリオン「いのち動的平衡館」におけるリアル展示、同時に開催するイベント、
ネット上に展開するバーチャル世界、3つのディメンジョンから「いのちを知る」ことを統合的に提示する。

ぜひご期待ください。



プロデューサー 福岡伸一

パビリオン名称

いのち動的平衡館

Dynamic Equilibrium of Life

建築計画 / デザインコンセプト

いのちはうつろいゆく流れの中にある。

私たち生命の身体は、つねに動的な状態にあり、物質、エネルギー、情報が絶えず流れ込み、一瞬、流れの中に浮かぶ淀みのような秩序を作り出し、すぐにまた流れ去る。

秩序は、宇宙の大原則である「エントロピー増大の法則」に従って、無秩序になる方向にしか動かない。

しかし、生命だけは、この法則にあらがって、自らを率先して分解し、同時に作り直すことによって、なんとか秩序を維持しようとしている。

これが生命のもっとも重要な本質、動的平衡である。

フランスの哲学者アンリ・ベルクソンが言った「坂を登ろうとする“努力”」である。

とはいえ、動的平衡も、宇宙の大原則に抗えども、これに打ち克つことはできない。

生命はやがて秩序を失い、大きな自然の循環の中に戻る。つまり個体の生命には有限性がある。

有限であるがゆえに生命は輝く。そして有限ではあるものの、無限の生命連鎖に連なる。

私のパビリオンでは、この生命の動的平衡を体感してほしいと願って、建築計画を進めた。

パビリオンは、生命が動的平衡を保ちながら、うつろいゆく流れの中で、ひととき自律的な秩序を表す姿を体現している。

それはふわりとした細胞膜が形態形成を果たす途上の、一瞬のいのちのゆらめきに見えるかもしれない。

プロデューサー 福岡伸一

建築計画 / デザインコンセプト

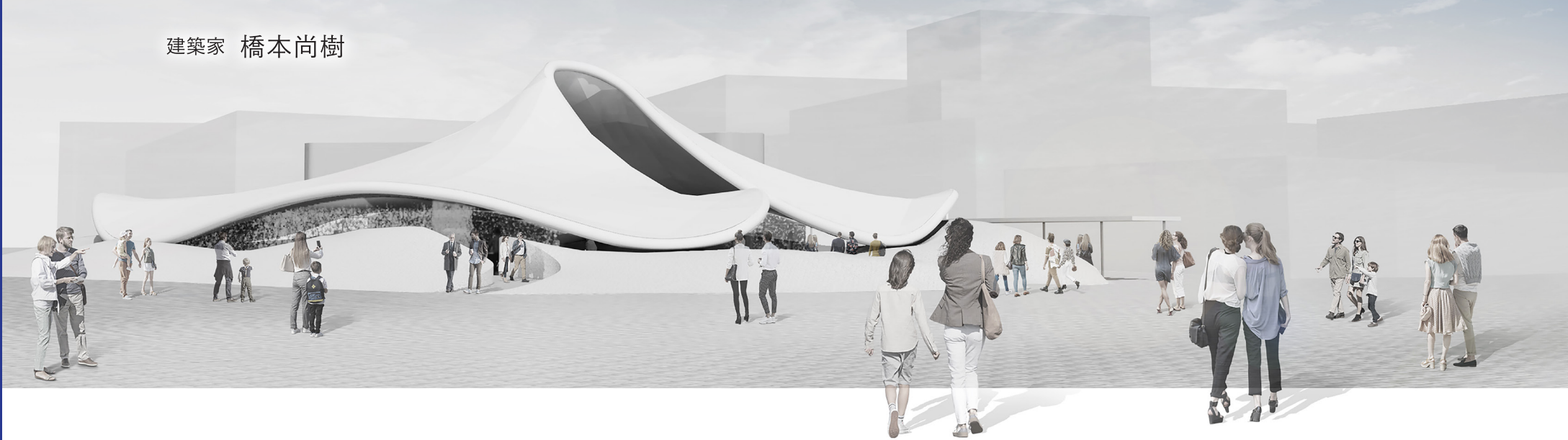
「うつろう建築」

ふわりと浮かんだ大きな屋根 生命がうつろいゆく流れの一瞬の状態であるように
一本のリングは重力や風などの流れに抗うことなく
その力を借りるようにつねに形を変え動的なバランスをとりながら浮かび上がる

半年後 生命がいのちのバトンをつなぐように リングは形をかえ大きな循環の流れの中にかえていく

うつろいゆく生命のような建築

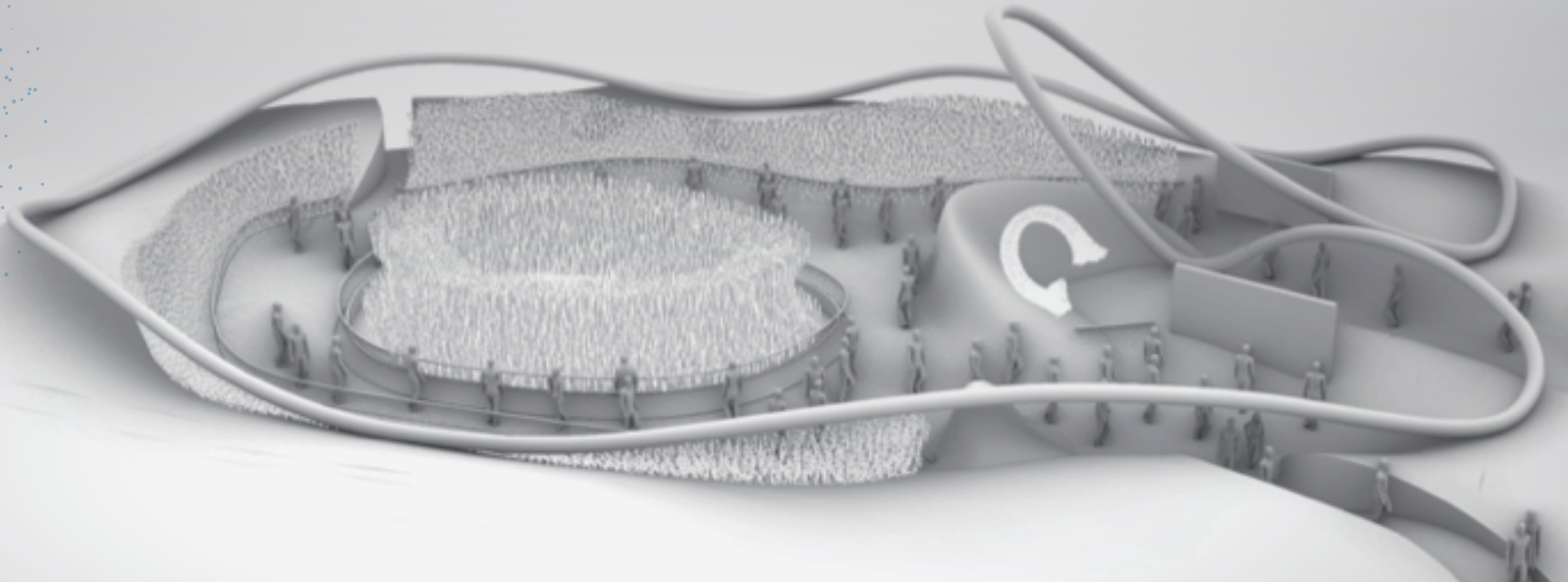
建築家 橋本尚樹



展示計画 / 展示コンセプト

生命は、互いに他を支えつつ自らを律している利他的で相補的な存在であり、絶え間ない物質とエネルギーと情報の流れの中で、常に自らを壊しながら創りつづけています。生命とは、相補性を維持しながら分解と合成を繰り返す「動的平衡」の流れの中にあるのです。

本展示は、生命の「動的平衡」を体感するインタラクティブな光のインスタレーションです。自らの身体が粒子化して環境の中に溶け、その粒子が多様な環境に生きる多様な生命のあいだを行き交いながら生命史を辿るダイナミックな生命絵巻の空間体験を通して、来場者は、自らの生命もまた「動的平衡」の流れの中にある利他的で相補的な存在であることを感じ、生命の本質としての「動的平衡」を知ることになります。



クリエイティブパートナー

建築デザイン



玉造幼稚園 写真:西川公朗



丹波山村庁舎 写真:吉田誠

NHA NAOKI HASHIMOTO
ARCHITECTS.Inc

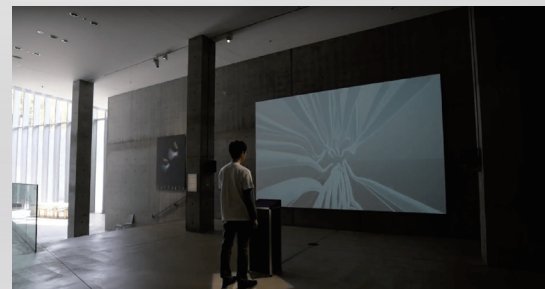
建築家 橋本 尚樹

1985年愛知県生まれ。京都大学工学部建築学科卒業後、東京大学大学院在学中にポーラ美術振興財団在外研修員としてAteliers Jean Nouvelに勤務。帰国後、内藤廣建築設計事務所を経て、2019年より橋本尚樹建築設計事務所(現NHA)主宰。現在は京都先端科学大学客員准教授としてキャンパス計画にも携わる。主な仕事に「玉造幼稚園」、「丹波山村庁舎」などがある。

展示演出



SKINCARE LOUNGE BY ORBIS



Exhibition"ATHLETE" at 21_21 DESIGN SIGHT

Takram

Takramは、世界を舞台に活躍するデザイン・イノベーション・ファームです。未来をつくる人、変化を生み出す組織のパートナーとして、プロダクトからサービス、ブランドから事業まで、デザインのでイノベーションを生み出していきます。東京・ロンドン・ニューヨーク・上海の4つの都市にスタジオを構えています。

展示協力

 **Tanseisha** 株式会社丹青社